

第3回 勝山市立保育園のあり方検討委員会 議事録

- (1) 日時 令和4年8月29日(月) 午後7時～8時30分
- (2) 場所 福祉健康センターすこやか 多目的ホール
- (3) 参加者 委員7名(1名欠席)、事務局8名
- (4) 内容
 - ① 開会
 - ② 協議・説明事項
 - ・公立保育園の維持管理費について
 - ・保育の現状と今後の見通しについて
 - ・今後の勝山市立保育園のあり方について
 - ③ 質疑応答
 - ④ 閉会

開会

会長あいさつ

先週月曜日の午前中に、野向・平泉寺各園を訪問して保育の様子を見せてもらい、その後各園長と話をした。現状を見て感じたことをまとめたものが今日配布の資料にもあるので、後ほどお話ししたい。

議事

- (事務局より説明)
- 公立保育園の維持管理費
- 保育の現状と今後の見通し
- 今後の勝山市立保育園のあり方

質疑応答など

- | | |
|-----|--|
| 委員 | 前回、資料の中で、これまでも3歳以上児が10名に満たない時もあったようだが、その時はどのような状況だったのか。 |
| 事務局 | 平泉寺保育園については全園児で14名という時期もあったが、その後、園児数を盛り返し、しばらくは定員30名程度という状況が続いた。当時は、あり方という考えまで話が進んでいなかったこともあり、少ない人数の中、工夫しながら保育をしていたと聞いている。 |
| 委員 | 10名という数字が何か基準としてあるのか。 |
| 委員 | 自分の発言の意図としては、10という数字に基準があるわけではない。集団保育にはある程度の人数のボリュームが必要ということである。 |
| 事務局 | 10名という数字が指針等書かれているわけではないが、教育委員会や県の義務教育課から出ている保幼小接続の資料を見ると、一定数の人数を必要とするという表現が出てくることから、そちらを参考にして10名という数字を使わせてもらった。 |
| 委員 | 10名ぐらいが妥当なのかという疑問と、どのくらいの園児がいれば集団として成り |

立つのか、将来的に子どもの人数が減ったことで、保育サービスの質などがどのように落ちていくと考えられるのか教えてほしい。

- 委員 資料2の2行目「いい意味で平和に過ごしながら～」の意味について説明したい。保育士は保育所保育指針を理解し、資格を持って保育している。おままごとを例に説明する。平泉寺・野向とも少人数の中でケンカもなかったが、発展もなかった。ここに人数が増えるといざこざが起こる。それにより、子ども達は葛藤を抱える。本来は子ども達だけで解決してほしいところだが、うまくいかない時に初めて保育士が現れ、仲介等をする。そういう中で、子ども達はいろいろな経験をする。平泉寺・野向保育園の子ども達は、気心知れた子ども達の中でお互いをよくわかっており、ケンカになる手前で止まってしまっていることが多いように感じた。人が増えれば増えるほど、いろんな意見が出てきて、その面白さを知る。それを「教育」と言っている。一方で日本の保育現場では安心とか安らぎを与えられる「養護」も行っている。保育現場では「養護」「教育」どちらも行っている。何人が妥当かというのは数字では表せないが、養護（安らぎ・安心）と教育を保障できる人数が妥当だと考える。現在の平泉寺・野向保育園の園児数は両方がギリギリ成り立っているが、今後、園児数が減れば、両方は成り立たなくなってくる。養護はできるだろうが、教育ができなくなってくると思われる。
- 事務局 子どもの数が減れば保育士の数も減る。公立は11時間の保育体制を保育士5人がシフトを組んで実施しているが、これが限界の人数である。子どもの数が減り、保育士も減るとなると、今の保育時間を維持できなくなり、保育サービスが低下していくことになると思う。
- 委員 資料1の公立保育園運営にかかる経費の1億円という金額が高いのか低いのかかわからない。補足なりわかるような資料を出してもらえないか。
- 事務局 市としても検討したが、数字を出すのは難しい。参考までに私立で38人の園児を1年間預かった場合、公定価格で計算するとだいたい6,000万円である。その他に補助金もあるので単純に比較はできないが、私立だと6,000万円＋ α でやっていくという形になる。公立の1億円という金額はほとんど人件費と考えてもらえばよい。公立の保育士は平均年齢48.3歳と高い。私立は若い保育士が多く賃金も低いが、公立は平均年齢が高く、人件費が増えているという状況である。
- 委員 公立園にかかわる職員は全部で13名であり、ほとんど人件費ということなら、1億円を13名で割った金額だということになる。私立だと定員30名で6,000万円かかっているということか。
- 事務局 国が決めている子どもにかかる単価は年齢や規模によって異なる。例えば0歳児なら1人あたり月20万円程度である。
- 委員 その単価分が国から園へくるということか。
- 事務局 国から市を通して園へ入る。それ以外に施設の改修などにも補助金が出る。県も補助するし市の持ち出しもある。また処遇改善加算という給料に補填するための手当もあり、一概に比較することは難しい。
- 委員 私立だと、30名程度なら7～8,000万円の費用がかかるところだが、公立だと1億

円かかるという理解でいいか。

事務局　そういうことになる。若い保育士ばかりならそんなにかからない。公立はここ10数年保育士の採用はない。

委員　費用の違いは人件費の違い、年齢層の違いがそのまま公立、私立との差に表れているということでもいいか。

事務局　それでいい。

委員　公立は現在園児17名に対して保育士5名であるが、私立にこの17名が分散されると保育士は2名程度になるだろう。私立は経営が大変だが、補助金を使いながらなんとかやっている。今後少子化が進む中で、市全体として子ども達にどういう教育をしていくことが大事かを真剣に考えている。野向・平泉寺保育園のあり方について、それぞれ思いもあるだろうが、私立についてもなくなるところが出てくるかもしれない。なくさずに他の事業と併設などもあるかもしれないが、子どもの数が少ないと、それも難しい。公立でそれぞれ5名ずつの保育士を抱え込むという状況が続けば、赤字財政などマイナス面はたくさん出てくるだろう。税金が少しでも節約できて、市の幼児教育がいい方向に考えられるといいと思う。

委員　公立園にかかる経費はだいたいわかったが、具体的にどれくらいの赤字なのかを数字で出すのは難しいか。

事務局　基本的な額の3/4は国と県から入ってくる。市の持ち分は1/4。おそらくだが、私立園として6,000万円かかった場合、3/4は国と県から子ども子育て交付金という形で市にくるのではないと思われる。ただ、公立は1億円かかっていることを考えると、市の持ち出し分は大きいということになる。はっきりした数字はこれ以上は示せない。

委員　今、公立園は38名園児がいて、1億円かかっているということは、全部市が持ち出しているということか。

事務局　算定の方法がそれしかないが、おそらく地方交付税として市に入っている。市全体のことなので算定は難しい。

委員　例えば1,000～2,000万円だとしても、残り8,000万円を持ち出しているということか。

事務局　おそらくそうなるかと思う。

委員　私立であれば2,000万円で済むものが、例えば8,000万円くらいかかるということでもいいか。

事務局　そういうことになると思うが、地方交付税はその年その年で異なり、保育園分など細かい配分はわからなくなっている。

委員　この会に参加していて、話が進んでいるのか疑問に思う。会のメンバーだけで話しているが、もし廃園という方向に進んでいくのであれば、保護者の賛成を得ないといけ

ないのではないか。この会で何を決めていくのかがよくわからない。

- 事務局 この会は廃園やその時期を決めるものではなく、公立園の方向性を決める会である。
- 委員 この会の内容を他の保護者に見せられないかと思う。他の保護者は参加できず内容もわからないので不安に思っている。例えばリモートなどでも参加できないかと思う。
- 事務局 今後、保護者への説明会もしていく予定ではあるが、ある程度の方向性を決めてからがよいのではないかと思っている。
- 委員 この会で何が話し合われているか保護者は気にしているが、市は最終的にどういうふうに持っていきたいのか疑問を感じる。
- 事務局 まず現状を示して皆さんに理解していただいた上で、市が廃園も含めどうしていくかを決めていくこととなると思う。
- 委員 あり方検討委員会は、勝山市長から諮問を受けている。この会では選ばれたメンバーが想定される問題や課題をもんで、最終的に出す答申という文書に反映させることが一番の目的である。廃園を決めるのではなく方向性を決める会であり、どうするかは市長が決める。ここで何が話し合われたか、どのような意見が出たかはずっと記録に残るので、意見があればどんどん言ってほしい。
- 事務局 今後の公立園については、園児の増加が望めず、それによって適切な保育サービスが受けられない、集団保育が限界ということを経験すると、廃園も1つの選択肢として考えている。
- 委員 事務局としての提案は廃園も致し方ないということであるが、それについてはどうか。今、廃園という言葉が事務局から出されたが、それを受けて意見がないか。
- 委員 1億円を職員数で割ると750万円程度となるが、公立の保育士は一人当たりそれだけの給料をもらっているということか。
- 事務局 1億円には社会保険料を含む人件費と給食費、施設運営費が含まれており、単に給料というわけではない。元々、経済的なことで公立園のあり方を議論の一つとするなら、最初から事務局として提示している。こちらは前回委員からの求めに応じて提示しているが、今回のあり方の内容としては、市は経済的な面で進めているのではないということをご理解いただきたい。
- 委員 私は毎回この会議内容を録音して議事録を作成し、住民に回覧して伝えている。他の地区の保護者はこのような情報が得られないため不安も生じているのだろう。保護者には情報を出して、それを伝えていくことが大切だと思っている。
- 委員 私立と公立の比較ができるのであれば、金額的なものも出すといいかもしれないと思うがどうか。
- 事務局 金額的なところはこれ以上は難しい。採算が合わない部分を公立が行うという面はある。

- 委員 市としての提案は廃園ということだが、以前もらった資料に他市町を調べた物の中で園児が0人になったところでまず休園し、3年後に廃園したところもあった。廃園だけでなく、休園など他の選択肢もあるといいと思う。
- 委員 今だと記録に残せるので、思いという形で発言してもらってよい。事務局として、今後のスケジュールはどうなるのか。
- 事務局 保護者への説明もしながら、9月中に次回委員会をできたらと考えている。
- 委員 保護者説明会に、有識者に出てもらえるといいと思うがどうか。園児が少ないことが利点と思っている保護者もいることから、先ほどの集団保育の話など、保育のことを話してもらえるといい。
- 委員 私としては構わない。9月中の保護者説明では、廃園という言葉も出すということになるだろう。情報を出すことはとても大切であるので、出せるものは出しながら、今後、答申を作っていく中で、廃園も含めて検討していくということによろしいか。

副会長あいさつ

今回の会議で市のお財布事情・経済事情はわからないこともあったが、少子化についてはひしひしと感じる。公立園を廃園ということになっても、時期ややり方など子ども達のことをよく考えながら行ってもらいたい。

閉会
